

# Fureai

Fujita Related All Information

2024 9.1

Vol.  
302

新代表取締役副社長挨拶

「行動」と「変化」をもつて  
社業の発展に一層邁進

## レポート・お知らせ

東日本製鉄所君津地区を見学  
各事業部の営業活動紹介

ほけんだより(テーマ:食事)

プラチナくるみん認定

鹿島建設様より感謝状授与(北陸建材営業所)

# 新代表取締役副社長挨拶

## 「行動」と「変化」をもって、社業の発展に一層邁進

今年の7月より、代表取締役副社長を拝命しました今井雄介です。このような大役を仰せつかり、責任の重さをひしひしと感じておりますが、これも偏に皆さんに支えていただいたおかげと、心より感謝申し上げます。

か、皆さんと共に考え抜いていければと思います。

副社長就任に伴い、薄板事業部に加えてステンレス・特殊鋼事業部を管掌させていただくことになりました。薄板事業部、ステンレス・特殊鋼事業部では、それぞれ扱う商材は異なりますが、システムや設備、業界構造など、共通する課題が多く存在しています。この両事業部に限りませんが、異なる組織が「全社最適」を旗印に一丸となり、共に課題解決に臨むことにより、藤田金屬にはまだまだ成長する余地が残されていると私は考えています。これまでも、両事業部では「融合」というキーワードを掲げ部分的な連携を模索してきましたが、

この先はより本質的な部分に焦点を当てていく必要があります。まずは、両事業部の皆さんの声を聞かせてもらいながら、現状の立ち位置、背景と経緯を正しく理解し、いかにして藤田金屬が市場に対して相対優位を發揮できるの

か、皆さんと共に考え抜いていければと思います。そして、既存事業のさらなる成長を目指すことと同様に、既存とは異なる事業の柱を創り出し、新たな収益源を確保していくこともまた重要です。藤田金屬としては、2023年1月に「テコ」を、同年8月には「樽拳」を設立し、まさに今、新たな事業領域の中で試行錯誤を重ねているところです。そしてこの9月には、こうした新規事業の創造を全社的に推進していくことを主目的として「新規事業室」を新設し、当室室長も務めることになりました。新規事業室では、藤田金屬の既存領域に囚われない、あらゆる事業（例えば、B to C（個人）向けの飲食店や保育所等も含め）の検討を行うことを想定しています。

一般論として、新規事業を成功に導くための重要な要素の一つとして「多産多死」という言葉がよく使われます。どれだけ多くの案を出せばいいものが出てくるのかという確率論を表す言葉です。こうした観点から、近いうちに改善提案のような形式で、皆さんから任意で

新規事業案を募集し、その内容に応じて褒賞を出すような制度を設けようと考えています。既存事業も同様ですが、ビジネスチャンスの種は誰かの「日常の不」の中に隠れています。ぜひ皆さんが日々の生活の中で感じている「不便」「不安」「不満」や、「こうなったらいいのに」「こんなものが欲しい」を教えてください。ぜひ、新規事業の参考にさせてもらえれば幸いです。ぜひ奮ってご提案ください。

ここまででは、私の新たな管掌範囲について、既存と新規という切り口でお話を

させていただきました。

最後に、私が藤田金屬に入社してから6年半が経ちますが、自身の行動の選択の中で一貫して大切にしてきた価値観は何かと振り返れば、やはり「動く」であつたと思います。これから先も、この普遍的な行動指針を原則としながら、能動的かつ連続的な「行動」と「変化」をもって、社業の発展に一層邁進してまいります。共により良い藤田金屬をつくっていきましょう。

以上



代表取締役副社長  
今井 雄介

# 東日本製鉄所君津地区の見学レポート

日本製鉄株式会社様 東日本製鉄所君津地区の見学会を2日程に分けて実施することになりました。7月18日に最初の日程を開催し参加者より感想をいただきました。次回は10月に実施予定です。

私は初めて製鉄所を見学させていただきましたが、製鉄のプロセスや環境への配慮について学べる貴重な経験となりました。

まず本館で映像を視聴しながら製鉄の基本的な流れを説明していただいた後、製鋼工程、銑鉄工程、製品工程の順に見学しました。

製鋼工程では、連続鑄造の瞬間を見ることができました。上部の通路から真っ赤な鉄が切断される様子を眺めていましたが、熱気ですぐに汗だくになりました。次に、銑鉄工程では外から第4高炉を見学しました。君津地区の第4高炉の炉内容積は第2高炉の約1.2倍あります。青空に映える赤茶色の巨大な建造物は圧巻でした。最後の製品工程では厚板の製造ラインを見学しました。トラブルにより圧延の様子は見られませんでした。製品の品質管理に関する説明を聴いたり、資料を読むことで、製品の信頼性がどのように確保されているのかを理解しました。また、環境への配慮では、製鉄所内で発生するエネルギー！副産物の好循環サイクルが達成されており、持続可能な製鉄を目指す姿勢が強く感じられました。

今回の見学を通じて、日本製鉄株式会社様の技術力と環境への配慮が融合した製鉄プロセスを深く理解することができました。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

日本製鉄株式会社の東日本製鉄所君津地区へ見学に行ってみました。まず敷地の広大さに驚きました。敷地内には製鉄に関わるさまざまな建物が並び、車通りが多く、列車や船も行き来しているため、企業の敷地というよりは一つの街のようでした。ガソリンスタンドまで完備しているとは驚きです。あまりにも敷地が広いため、常にどこかしらで工事が行われているようです。

次に工場内を見学しましたが、やはり熱した鉄を扱っているため、非常に暑かったです。汗だくになりながら工場内を歩いておりました。工場内も広大で、大きな機械が並んでいる光景は圧巻でした。また、大きな鉄が切断される場面はダイナミックです。一番印象的だったのは、工場内の人の少なさで、見える範囲にはほとんど人がいませんでした。自動化や遠隔操作で作業するため、機械の近くに人がいる必要がないとのことでした。

工場内は暑くて騒音が響き、過酷な環境でしたが、これなら作業者の負担が軽減できます。何よりも安全に作業が行えることが良いと思いました。普段でもでき上がった製品(コイル等)を見る機会はありますが、その製品ができ上がるまでの工程を知ることが、より鉄への関心が深まりました。



# 各事業部の営業活動紹介

事業部内での営業活動は情報共有される場面はありますが、所属事業部以外の営業活動を知ることができる機会は、そう多くはありません。そのため、社内報を通じて各事業部の活動を紹介したいと思い、今回、各事業部長より事業部内での取り組みについて寄稿いただきました。

## ステンレス・ 特殊鋼 事業部

当事業部の新しい取り組みとして、燕支店ユーザーの事例を紹介します。2016年に新規口座開設後、少額取引継続も、担当変更を機に訪問を重ねると、安全対策のために多くの営繕業者が入り込んでいることが分かりました。そこで、地場営繕業者とのつながりを活用し、当社が材料供給～施工まで一貫して請け負える旨のPRを重ねたところ、頻りに引き合いが来るようになりました。ただし、図面がない案件がほとんどで、現場実測やヒアリングを経て要望に応えるという当事業部では前例のない取り組みなので、度重なる打ち合わせや施工の立ち会いなど、普段の営業活動にはない苦労もあります。現在は、より大きな案件の受注に向けて窓口を建設建材事業部に移し、数百万円規模の受注につなげています。事業部の垣根を越えて情報共有し、他ユーザーへの展開も視野に入れて活動継続中です。

## 薄板 事業部

三条支店の取り組みを紹介します。2020年10月から「エキラボアソシエ」という団体に加盟しました。その後、JR東日本とCAMPFIREが協業して、地域活性化を目的に無人駅活用をテーマとしたプロジェクトをサポート。JR帯織駅に、ものづくり支援施設「EkiLab帯織」が誕生しました。その後、JR燕三条駅構内2階に「JRE Local Hub」の1号拠点誕生。街へつながる駅を玄関口として、『地域をつなぐ』『世代をつなぐ』をコンセプトに活動しています。昨年、「燕三条ジャパンフェス」が開催され、VIP用チタンチケットの製作に関わることができました。この「エキラボアソシエ」の加盟企業は約100社になり、飲食・加工・製造・卸売など多業種にわたります。当社実績としては、昨年度開催した「燕三条 工場の祭典 2023」のノベルティーとして焼肉用鉄板を製作しました。また、加盟企業様の新素材を活用して板金業者が製作した受付カウンターを、近々、三条支店に設置する予定です。当社としてもものづくりを材料供給の面で支えることや、新商品開発など、今後も社内外との連携を深め、新たなビジネスモデルの創出を目指していきたいと思っております。

## 建設建材 事業部

大規模地震や激甚化する風水害が多発する近年において、電力を安定的に供給するために東北および新潟地区で、送電線の新設・更新工事が国家事業として進められています。当事業部では上記のような大型プロジェクト案件を、早期の情報入手～ターゲット先の選定～営業活動の手順で行います。今回、新潟支店岩沼出張所で受注することができた送電線の基礎となる鉄塔新設の工事現場の事例について紹介します。鉄塔の新設は山間部での施工が多く、車両が通行するためにスロープが必要なケースがあります。マルチアングル工法が有効であり、今回は作業構台用ユニット足場の上部に使用する山留（やまどめ）・覆工板（ふっこうばん）等のリース材を手配し、納入しました。鋼材総重量550tのリース材の手配は非常に苦労しましたが、社内外のネットワークを活用して東北・関東・新潟から遅延なく現場に供給することができ、藤田金属の総合力を評価していただきました。社会を支えるインフラ事業に携わることには大変有意義であり、やりがいのある仕事です。

## 厚板・形鋼 事業部

当事業部では、薄板事業部やステンレス・特殊鋼事業部で受注されたコイル架台の製作を担当させていただいていますが、自分たちも販売を行えるように、7月にコイル架台販売に関しての説明会を実施していただきました。私たち各支店や地域の運送業者、ユーザー、同業特約店、工具、ガス販売店などへのPRは一通り行ったものの、あまり成果は得られず、ローラー作戦を実施することにしました。「藤田金属と名乗るが鋼材の話はしない」「資材ではなく安全のご担当者様を訪問する」という普段にはないルールをつくり、まず手始めに新潟市と長岡市に存在する57カ所の団地を、業種問わず団地内の全企業を訪問するという活動を開始しています。まだ活動を始めたばかりで成果は出ていませんが、訪問地域は徐々に拡大する予定であり、継続して販売活動に努めたいと思っております。

# ほけんだより

保健師



みなさん、こんにちは。  
ほけんだよりでは健康に役立つ情報をお届けします。  
今回のテーマは「食事」です。夏は体力を消耗しやすいため、  
より食事に注意していきましょう!

## 食事の影響

人の体は約37兆個の細胞からできており、細胞を覆う細胞膜は、栄養を出し入れする重要な役割を果たします。この細胞膜の材料は油です。

例えば、仕事をバリバリ頑張りたいと思っても、昼食を抜いたり食事バランスが悪いと、脳のパフォーマンスが低下し集中力や生産性の低下に繋がります。また精神的健康が保たれないなど、食事は全てに影響すると言えます。

## 1日に必要なエネルギー量 ご存じですか？

適正エネルギー = 適正体重 × 生活強度

適正体重  
(身長-100)×0.9

生活強度  
ほとんどの人：中程度30  
運動量の少ない人：軽い25  
肉体労働など：重い35

身長170cmでおおよそ1,575～1,890kcal

## 食べるもの、偏っていませんか？



step1

タンパク・脂肪・乳製品類を  
朝・昼・晩3食に振り分けましょう

step2

3食とも野菜をつけましょう

step3

主食はしっかり食べましょう

## 塩分の取り過ぎ



「日本人の食事摂取基準(2020年版)」では、塩分摂取量の目安は、成人1人1日当たり、男性7.5g未満/女性6.5g未満。

夏は水分摂取の他に、塩分摂取ももちろん大事ですが、塩分の取り過ぎには注意しましょう。足にむくみが見られたら要注意。

## ベジファースト



食事は野菜から食べることを意識しましょう! 食べる順番を変えるだけのシンプルな方法ですが、生活習慣病の予防効果があり、気軽に取り組める健康づくりの方法です。

お知らせ

## プラチナくるみん 認定のお知らせ



2024年7月にプラチナくるみんの認定を受けました。

「プラチナくるみん」とは、厚生労働大臣が「子育てと仕事を両立しやすい優良企業」として認定する証です。次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画を策定し、行動計画の実施と計画目標達成に加え、育児休業の取得率向上や子育て支援に関する制度の充実、時間外労働時間の削減への取り組み、有給休暇取得の推進、在宅勤務等の多様な働き方の整備等を満たすことで認定を受けることができます。

当社は、2018年に「くるみん」認定を受けていましたが、このたび、さらに高い水準での子育て支援に取り組んでいる「プラチナくるみん」企業として認定されました。新潟県内では9番目の認定企業となります。

認定を継続するためには各目標を毎年達成していく必要があり、これからも柔軟な働き方や子育て支援制度の維持と拡充を目指していきます。

お知らせ

## 北陸建材営業所が 鹿島建設様より表彰されました

2024年8月に、北陸建材営業所が令和6年能登半島地震における初期応急復旧活動に尽力したとして、鹿島建設株式会社土木管理本部様より感謝状と記念品が贈られました。

### ～北陸建材営業所/所長のコメント～

資材の供給や工事のため、1月中旬から現地へ乗り込みました。当初は、宿泊施設もなく水・食料も全て持ち込みで、往復7時間の行程で途方に暮れた記憶があります。また、道中の土砂崩れや建物の倒壊、道路の崩落等、自然の猛威を感じました。まだまだ復旧には程遠い現状ですが、老いに抗いながら微力ながらも貢献する所存です。

